

## 登坂能力について

弊社製品のカタログに記載されている「登坂能力」につきまして、ご質問をいただく事がたびたびありますので、改めて登坂能力についてご説明させていただきます。

### ▼登坂能力とは

登坂能力とは、登坂許容角度を角度や勾配という数値で表したものです。

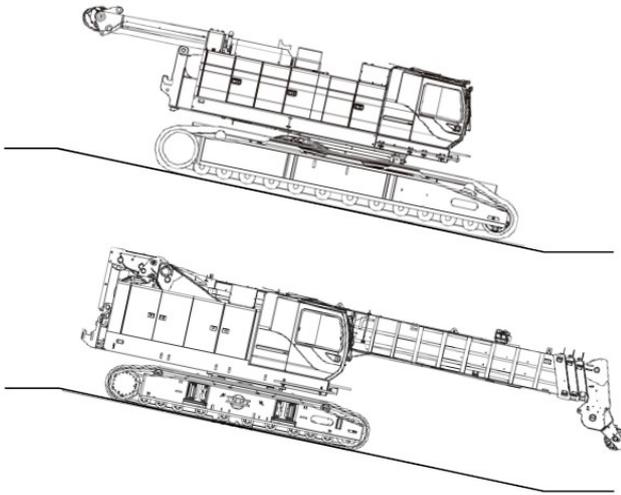
例：16.7度（角度） ⇒  $\tan(16.7^\circ) \approx 0.3 =$  30%（勾配）

クローラクレーンを坂道で走行する際には、本体の転倒・ブームの反転・スリップなど様々な点に注意を払う必要があります。仕様・ブーム長さなどによって、都度検討する必要があります。

### ▼主要諸元表に記載の登坂能力

主要諸元に記載されている登坂能力（30%、16.7度）は、本体を傾斜させても問題無く原動機が運転出来ることを記載しており、実際に登坂する際の登坂可能な角度を記したものではありません。

### ▼本体のみの場合



#### 最大登坂角度

- ラチスブームクローラクレーン  
200ton以下 : 12度  
201ton以上 : 8度  
(SL4500J・SL6000J : 11.3度)
- テレスコピックブーム  
クローラクレーン(ブーム付)  
全ての機種 : 15度

※濡れた路面・凹凸などの路面状態や摩擦により小さくなる場合があります。

### ▼カウンタウイトやブームを搭載した場合

カウンタウイトを搭載すると、カウンタウイトの落下や本体の転倒といった危険性があり、機種・仕様ごとに登坂能力を別途計算致しております。つきましては、取扱説明書もしくは弊社指定サービス工場までお問合せ下さい。